

兒い雷らい也や豪こう傑せつ譚たん上じやうのの卷まき
 篇へん四し



^13
 3878
 67

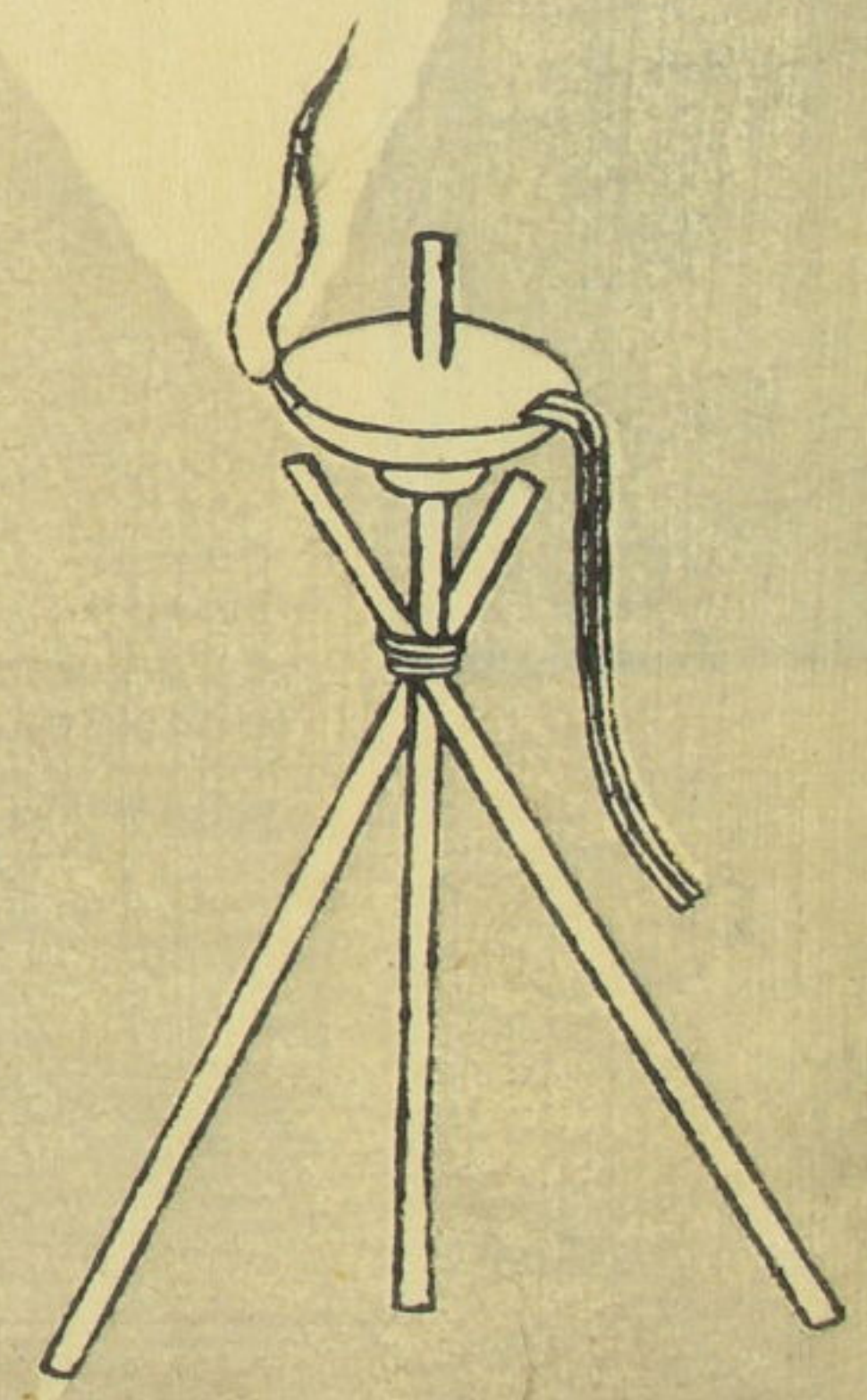


門へ13
 號3878
 卷67

兒雷也
 豪傑譚

上卷

一 柙の亭作
 一 壽多画



泉市棒

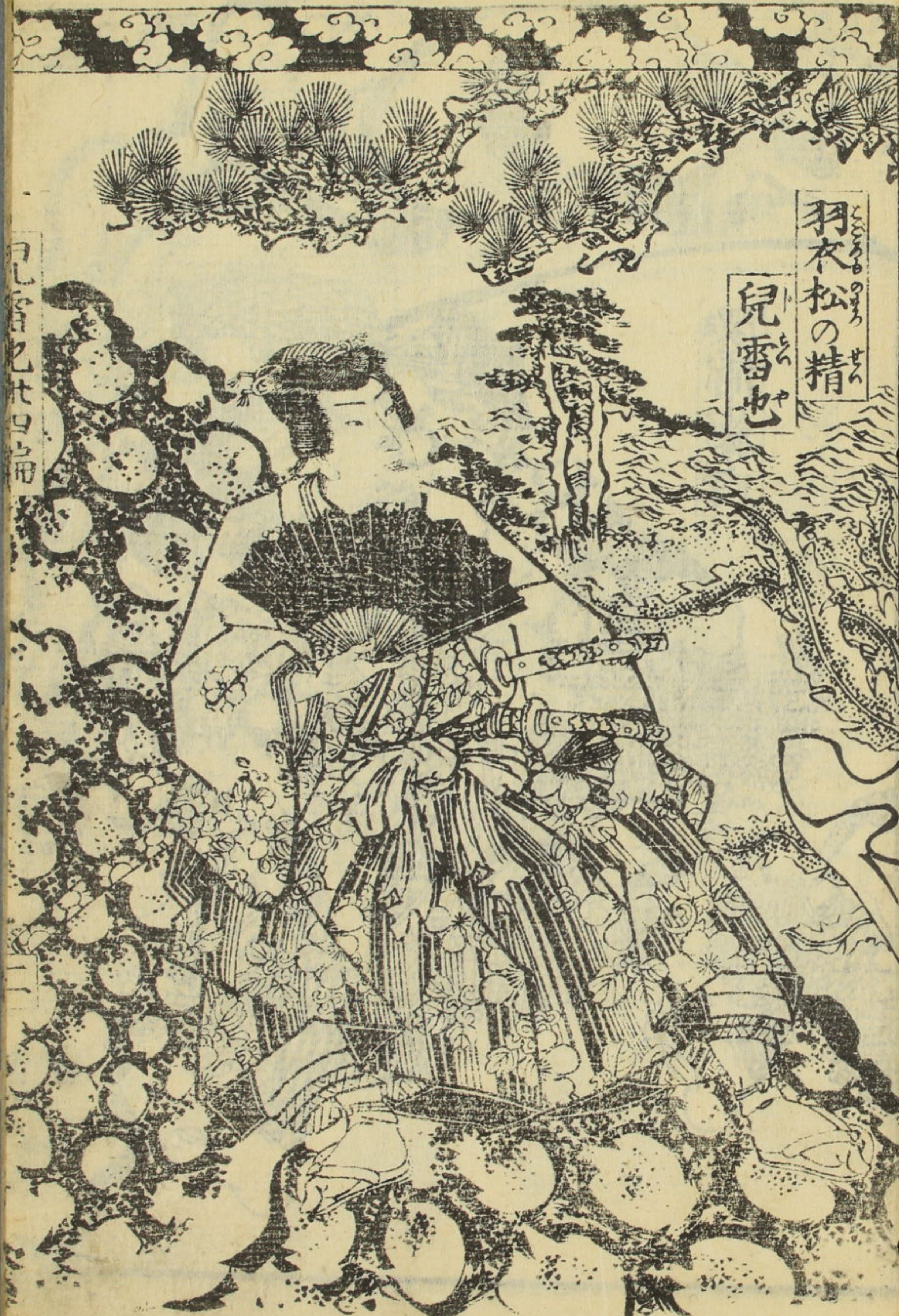
上代の通言ふ物事十分ふ行渡る吏を譬論て谷潜の挾渡極と
 りふ語ありてたふらへ蟾蜍の古名ありとど東海道大井河の上三里
 ろうり此山の谷ま暮の大なるがわりて其返の人いたんら又えんぐとよふ
 此物性得静めて人ふ懼む童の捕繫み或い桶櫃ふ覆むふりんの
 間脱去と島田宿の服部といふ人の話乃再聞虚實いふねと蝦蟇
 の妖術證故い則此本ま谷潜の谷と出行る所へらてゆくさうふ
 障碍のさなかく津浦ままを行きゆめ里の流布繪双紙志じさう
 蟾蜍なうぬひきまの御蔭とありがう其義誌して序文とすのこ

安政己未新春

柳下亭種員記



兒雷也卅四編



羽衣松の精
兒雷也

月し百乙廿四と冊

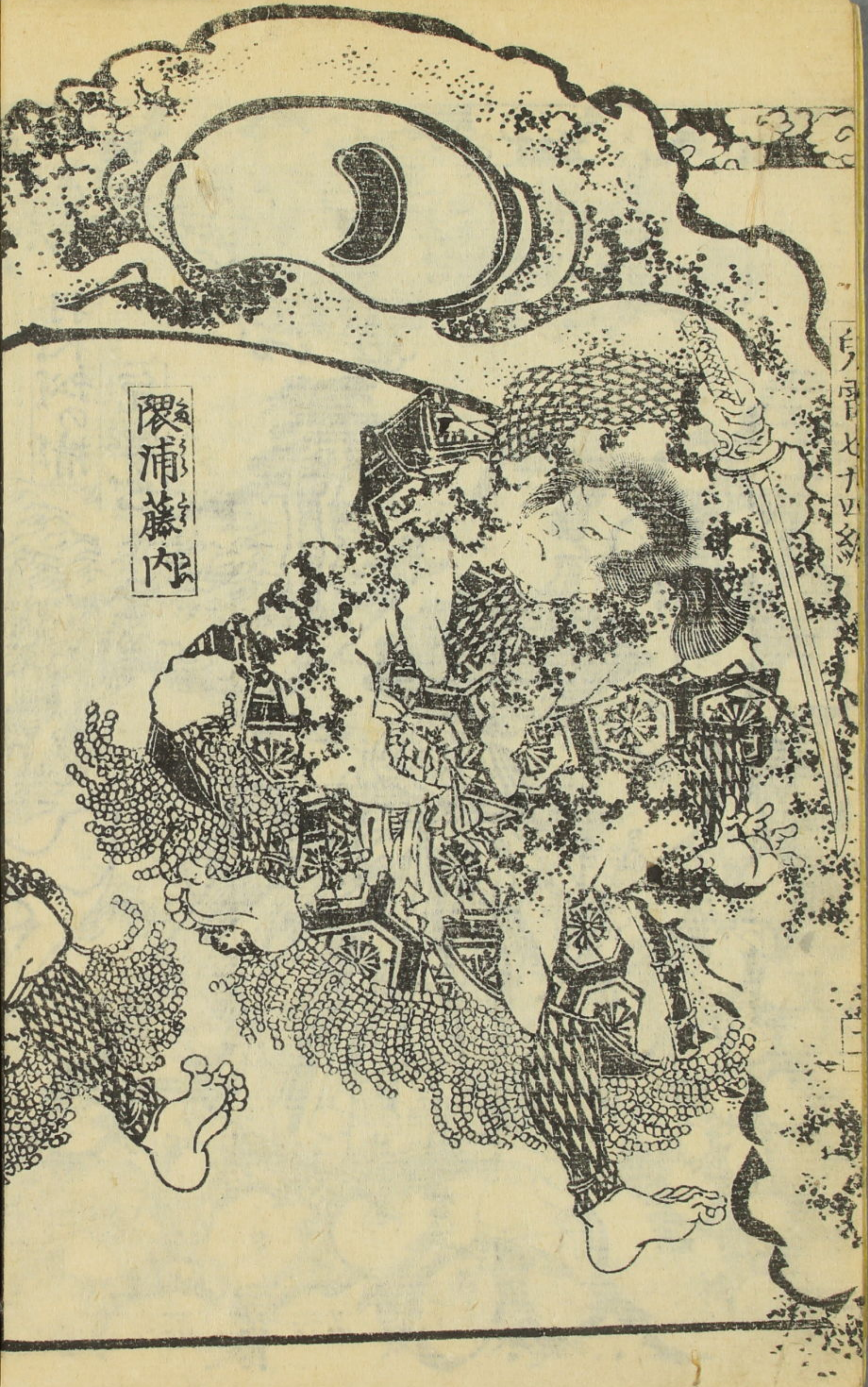


元番七世四編



全藤六

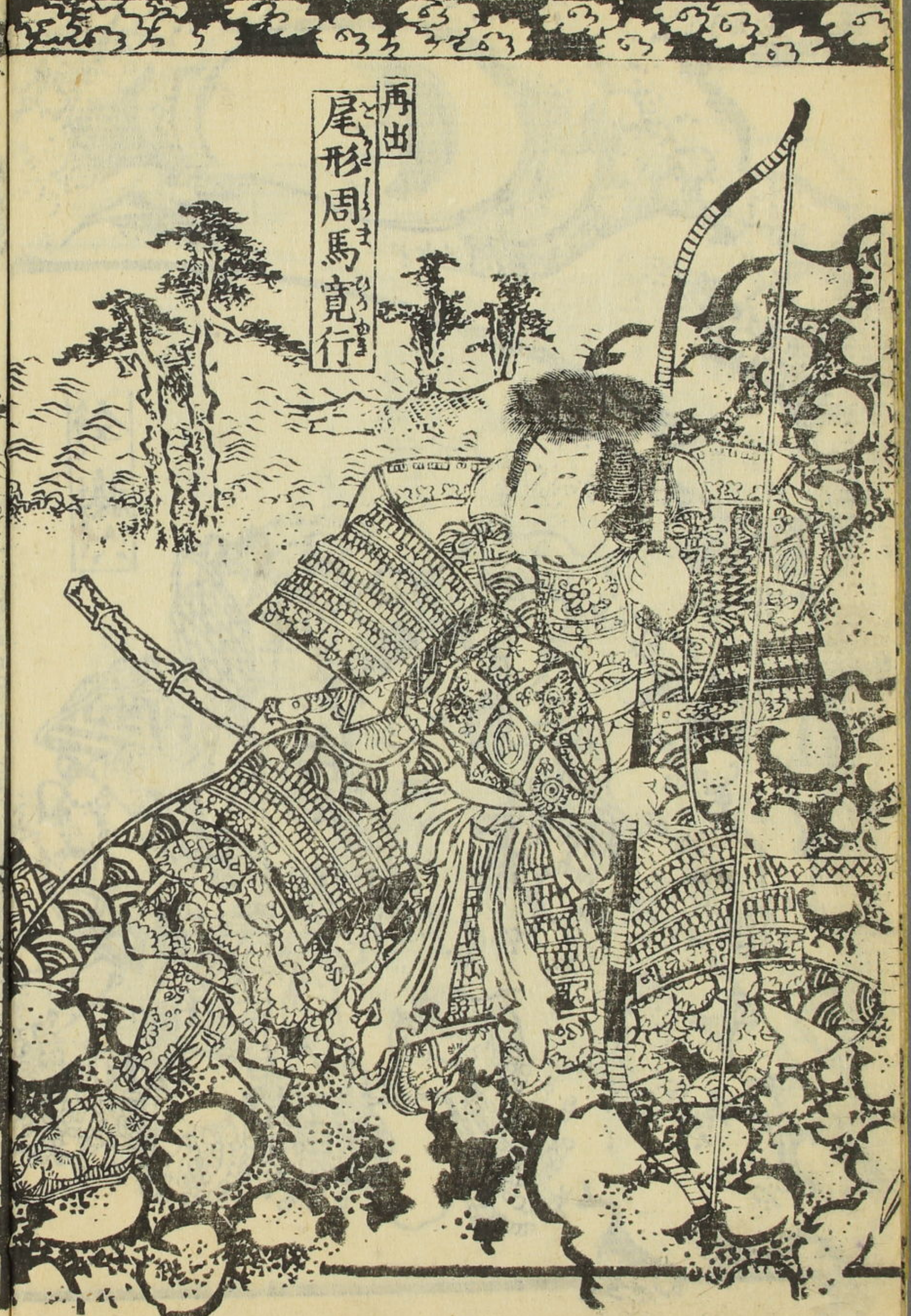
隈浦藤内



元番七世四編



契情岸川

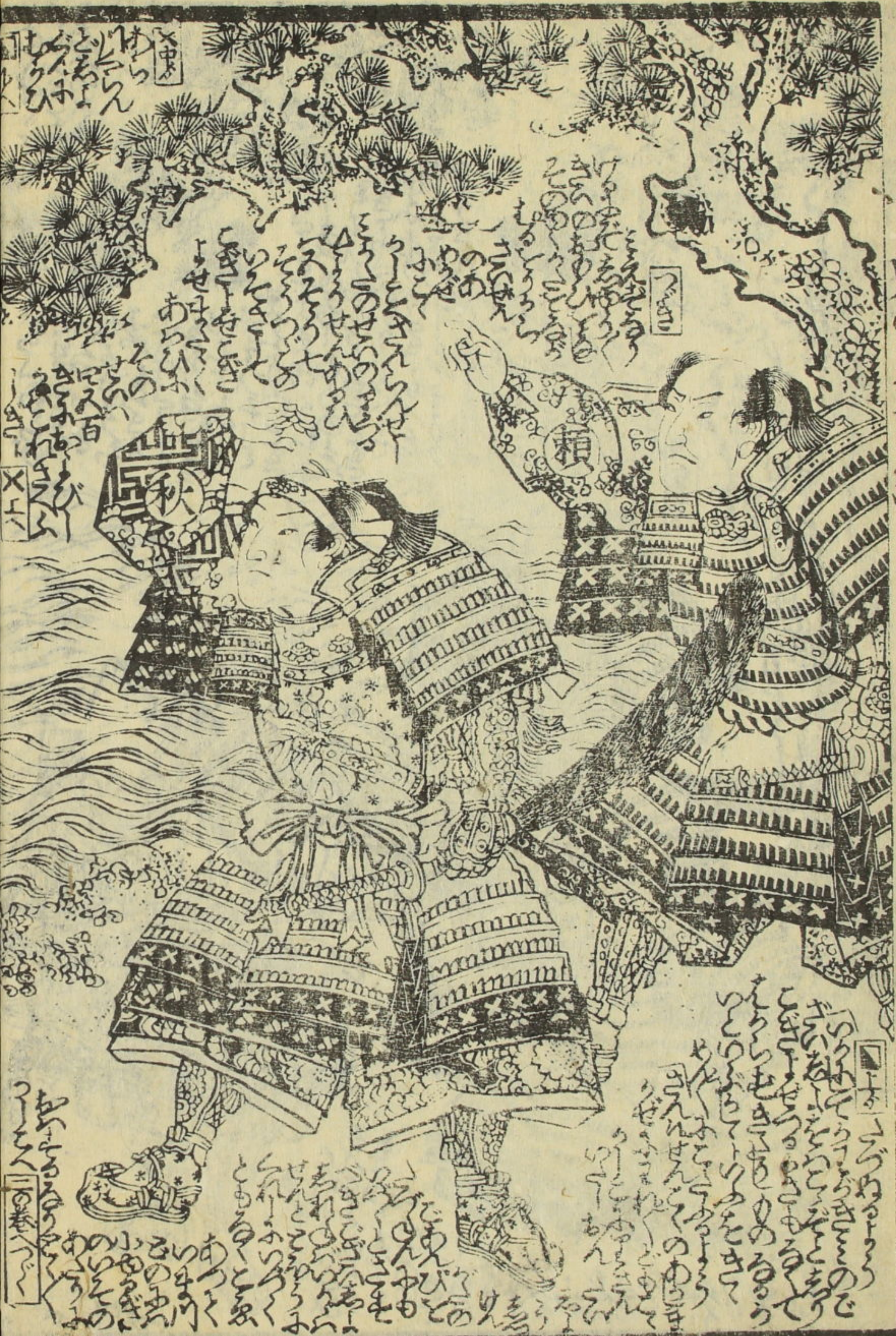


再出
尾形周馬寛行



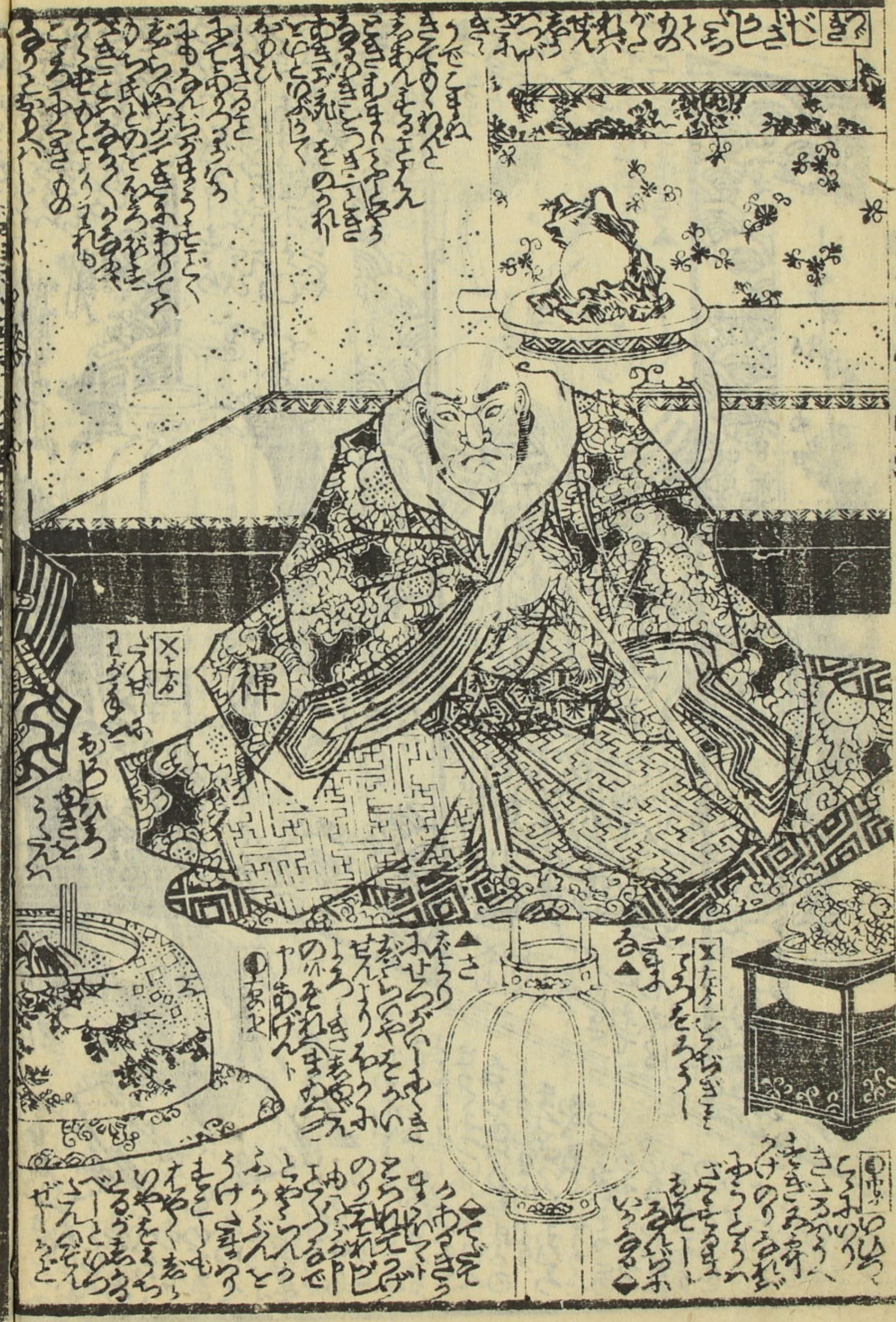
白鳥のついで

せー



虎雷也廿四編

五



鳥居

十

種員作國貞画



一 兎雷也豪集譚

四拾七篇

一 休单紙

拾五篇

一 風俗浅間嶽

拾四篇

一 黄金水大盡盃

拾七篇

書肆
地本 問屋

芝神明前
和泉屋
市兵衛

銀座四丁目
同 支店

